第 2 期すまいる子ども・若者プランの総括

1 第 2 期すまいる子ども・若者プランの実施状況

第 2 期すまいる子ども・若者プランでは、「安心して子育てを楽しむことができ、子ども・若者の笑顔があふれるまち」を目標に掲げ、この目標を実現するために「ライフステージに応じた総合的で一貫した子育て支援」を基本理念に、5つのプロジェクトを設定し総合的に様々な施策を展開してきました。

第 1 期プランから行ってきた各種の取組は第 2 期プランにおいても引き続き注力しつつ、掲げた目標の実現に向け、新たな取組の着手、既存の取組の拡充などし、施策を展開してきました。

新規の主な取組などを示しつつ、各プロジェクトを振り返ると次のとおりとなります。

I 子育てと仕事の両立プロジェクト

多様な働き方に対応しつつ子育てと仕事が両立できる環境の充実を図るため、子どもの預かり環境や女性の働きやすさに視点を置き、保育園等や病児・病後児保育施設の整備への補助、児童クラブの整備、病児・病後児保育施設での児童の受入れ体制の充実、医療的ケア児の保育体制の整備を推進し、保育においては、令和 5 年度には年度途中の待機児童も解消するなど、積極的に環境整備を図ってきました。

他方、対象年齢の拡充などによる未満児一時預かり事業の充実を求める声もある中、その主要な担い手となっている民間の子育て支援団体が将来にわたって安定的にサービスを提供できる盤石な体制となるよう支援を図っていくなど、民間活力がより活躍できるよう進めていく必要があります。

〈プロジェクトの新たな取組の経過〉

施策 1 多様なニーズに対応した保育環境等の充実

施策 2 子どもの放課後等の居場所の確保

施策 3 男性の家事、子育て参加の推進

施策 4 出産のために退職した女性等の再就職支援

施策	新たな取組	R2	R3	R4	R5	R6
施策 1 多様なニーズに対応した保育環境等の充実	つくし保育園移転改築への補助（子育て支援センター新設含む）	→				
	インマヌエル・ルーテル幼稚園施設整備への補助	●				
	塚野目保育所の駐車場整備			●		
	石上どれみ保育園の施設整備への補助			●		
	北陽保育園の施設整備への補助				●	

	県央基幹病院併設病児・病後児保育施設整備への補助				●	
	医療的ケア児の保育所受入れ	→				
	県央基幹病院併設病児・病後児保育施設開設					●
施策2 子ども もの放課後 等の居場所 の確保	さんさん児童クラブの開設（次年度増設）	●	●			
	月岡児童クラブの小学校敷地内での新築			●		

II ハッピー子育てプロジェクト

「子育ては楽しいもの」「子育てを楽しむことが親と子の幸せにつながる」という考えの下、新たな子育て支援センターの整備、既存の公園への遊具等の整備を行うなど、親子で集い、楽しむことのできる場の充実を図ってきました。

また、子育てによる若年世代の経済的負担が課題とされる中、令和3年度以降には子育て家庭への経済的支援を各般にわたって充実させ、個々の家庭における子育てに対する経済的な不安の払拭に努めてきました。

さらに、子育て世代に親和性の高い SNS 等のツールを活用するなどし、子育てに関する相談をより身近に利用でき、また、子育てに有用な情報へよりアプローチしやすい環境の形成に努めてきました。

他方で、国のこども大綱において「こどもまんなか」が標榜される中、今後は、子育て世代の親の目線だけでなく、子どもの目線で子ども自身が居場所や遊び場を居心地のよい拠り所としていける環境づくりにも目を向けていく必要があります。

〈プロジェクトの新たな取組の経過〉

施策1 親子が集える場づくり

施策2 親子で楽しめる公園の整備

施策3 子育て家庭へのサポートの充実

施策	新たな取組	R2	R3	R4	R5	R6
施策1 親子 が集える場 づくり	つくし保育園子育て支援センター新設への補助	→				
施策2 親子 で楽しめる 公園の整備	総合運動公園、大崎山公園の遊具・設備のリニューアル	●				
	しらさぎ森林公園の遊具更新及び木道修繕		●			
	保内公園の遊具及びベンチの更新。東三条公園、四日町公園、広貞公園へ複合遊具設置			●		
	四日町公園、輪中の里公園、下田大橋河川公園の照明更新				●	
	総合運動公園の木橋改修 中浦ヒメサユリ森林公園の遊具更新及び遊				●	●

	歩道、トイレ改修（予定）						
施策3 子育て家庭へのサポートの充実	子育て支援サイト（HP）の開設					→	
	子育て世帯家計応援給付金の支給（18歳までの子ども1人当たり1万円）				●		
	出産祝い品「ベビ♥パケ」の贈呈					→	
	不妊治療費助成の開始、次年度拡充（自己負担額の2/3助成→全額助成）、先進医療（上限15万円助成）					→	
	不育症治療費助成（上限15万円助成）					→	
	伴走型出産・子育て応援事業による相談支援及び経済的支援					→	
	妊産婦医療費助成の拡充（一部負担金を除き半額助成→全額助成）					→	
	産後ケア事業の実施、令和5年度拡充（全額助成）					→	
	子ども医療費助成の拡充（通院・入院ともに高校生まで）					→	
	インフルエンザ予防接種費用の助成（1回につき2千円補助、高校生まで）					→	
	第3子以降の副食費の免除					→	
	第3子以降の保育料の免除					→	
保育所等及び小中学校等の給食食材費高騰分に対する支援（令和4年12月分～）					→		

Ⅲ 子ども・若者の健やかな成長プロジェクト

次代を担う子ども・若者の健やかな成長のため、母子保健の各般の取組に加え、歯科保健の充実や眠育の強化を図ってきました。

さらに、子どもの発育や子育てに対する不安を払拭するため子どもの発育・子育て相談に引き続き注力してきたことに加え、すべての妊婦に対し妊娠届出時から相談支援を実施する伴走型出産・子育て応援事業を開始したほか、保護者の多様な働き方を考慮し、SNS等を活用するなど気軽に、かつ、きめ細やかに相談できる環境を構築しました。

これらの取組は、子どもの成長に合わせ継続していくことが肝要であることから、引き続き、着実にニーズに応じた体制を整えていく必要があります。

さらに、心の成長についても取り組んでいくことが子どもたちの健やかな成長につながることから、「私のメッセージ小学生大会」など、子どもや若者が普段の生活体験を通じて感じたことや社会問題に対する自らの考えを表明する場を設けてきました。

こども基本法の制定により改めて示されたように、子どもに関わる施策に対しては、その当事者である子ども自身の考えの反映が肝要です。今後は、様々な機会を捉えて、市が行う子ども施策に関する意見を子どもや若者から聴取し、その

意見に対して市がフィードバックを行うなど、子どもや若者の社会参画意識を醸成し、より一層自己肯定感や自己有用感、社会の一員としての主体性を高める方策を充実させていく必要があります。

〈プロジェクトの新たな取組の経過〉

施策1 母子保健、家庭教育の充実

施策2 子どもの発育・子育て相談の充実

施策3 子ども・若者の社会形成、社会参加の推進

施策	新たな取組	R2	R3	R4	R5	R6
施策1 母子保健、家庭教育の充実	将来の妊娠を見据えたケア事業（妊娠を見据え体の状態を知るための検査費用助成）				→	→
	不妊治療費助成の開始、次年度拡充（自己負担額の2/3助成→全額助成）、先進医療（上限15万円助成）（再掲）			→	→	→
	不育症治療費助成（上限15万円助成）（再掲）				→	→
	妊産婦医療費助成の拡充（一部負担金を除き半額助成→全額助成）（再掲）			→	→	→
	産後ケア事業の実施、令和5年度拡充（全額助成）（再掲）	→	→	→	→	→
	産婦健康診査の実施				→	→
	新生児聴覚検査の実施				→	→
	1か月児健康診査の実施					●
	子ども医療費助成の拡充（通院・入院ともに高校生まで）（再掲）		→	→	→	→
	インフルエンザ予防接種費用の助成（1回につき2千円補助、高校生まで）（再掲）				→	→
施策2 子どもの発育・子育て相談の充実	3歳児健診における視力屈折検査の実施				→	→
	子どもなんでも相談（LINE）の開始		→	→	→	→
	伴走型出産・子育て応援事業による相談支援及び経済的支援（再掲）			→	→	→

IV 子ども・若者支援プロジェクト

近年、児童虐待や発達障がい、不登校、ひきこもりなどの子どもや若者が抱える課題や困り感が多岐にわたり、また、それが家庭の生活困窮や保護者の障がいなどの要因と複雑化・重層化し解決が困難なケースが増えてきています。

こうした子どもたちに対する支援の対応は、どのような状況下にあっても迅速かつ確かなものであることが重要です。

このことから、運用開始から10年以上が経過した「子ども・若者総合サポートシステム」の各連携の在り方について点検し見直しを図る中で、支援情報の共有をよりスムーズに行うため、ICTを活用した連携手法の導入を図るなど、改め

て、システムにおける関係機関の連携の在り方をより確かなものとしてきました。

子どもたちを取り巻く環境が変化し続ける中、システムそのものも柔軟に対応していけるよう、引き続き見直しを図りつつ、運用していく必要があります。

〈プロジェクトの新たな取組の経過〉

施策1 子ども・若者総合サポートシステムの充実

施策2 三条っ子発達応援事業の充実

施策	新たな取組	R2	R3	R4	R5	R6
施策1 子ども・若者総合サポートシステムの充実	子ども・若者総合サポートシステムの点検・改善（調整機関運営マニュアルの策定）				→	
	不登校児童生徒支援員の配置の充実	→				

V 子ども・子育て応援社会プロジェクト

子ども・若者が健やかに成長することができる活力ある地域社会を実現させるため、青少年育成市民会議や子ども会連合会などの青少年育成関係団体の活動、自治会やPTA等の地域による登下校時の見守り活動、青少年指導委員による青少年パトロールなどへの支援に努めてきました。

また、継続的に通学路の危険箇所の改善対策に注力してきたほか、登下校のスクールバス運行基準の見直しの取組を開始するなど、子どもたちの通学環境の安全・安心の向上に努めてきました。

地域ぐるみで子どもたちの健やかな成長を応援する機運をより醸成していくことで、子どもたちが毎日を過ごす地域の環境の安全・安心を向上させていくため、引き続き、これらの取組を確実に継続していく必要があります。

〈プロジェクトの新たな取組の経過〉

施策1 子ども・子育て家庭を支えるまちづくりの推進

施策2 地域における安全・安心の確保

施策	新たな取組	R2	R3	R4	R5	R6
施策2 地域における安全・安心の確保	通学路への防犯カメラの設置			→		

2 第2期すまいる子ども・若者プランの総括

子育てしやすいまちづくりは、「安心して子育てを楽しみ、次代を担うすべての子どもたちが心身ともに健やかに育つこと」を目指し、子どもの育成環境を様々な側面から調べていくことにあります。

この考えの下、第1期プランに引き続き、第2期プランにおいても「子育てと仕事の両立プロジェクト」「ハッピー子育てプロジェクト」「子ども・若者の健やかな成長プロジェクト」「子ども・若者支援プロジェクト」及び「子ども・子育て応援社会プロジェクト」の5つのプロジェクトを推進してきました。

各プロジェクトにおいて「想定される重点項目」として掲げた取組は、総じて着実に推進され、それぞれ一定の成果を上げたものと捉えています。

また、第1期プランから第2期プランにかけて、どちらかと言えば、保育環境の充実や放課後の児童クラブの整備に代表される、子育てと仕事が両立できる環境の整備や子どもの育ちに関する困り感への支援体制の構築など、個々の子育て家庭では調べられない、行政が担うべき基盤づくり・環境づくりに主眼を置き、将来にわたる持続可能な子育て環境を構築していくための取組に注力してきました。

こうした基本的な方向感を基調としつつも、特に第2期プランにおいては、子ども医療費助成や妊産婦医療費助成の拡充、不妊治療費助成の充実など、多岐にわたり子育て家庭への経済的支援を充実させ、今まさに子育てに取り組んでいる個々の子育て家庭のニーズに対して一層手厚く子育て支援施策を進めてきました。

これまでのプランにおいては、国を挙げての少子化対策志向から、施策の目線の当て方が、どちらかと言えば、「子育てする親のための」「子育てのしやすさ」に傾倒したものであったことも否めず、特に、初めての子育てを開始する「幼児期の子育て」への支援に集中した傾向もありました。

これら子育て支援に係る基盤づくり・環境づくりの施策、そして、子育て家庭の安心感を支える経済的支援等の施策、いずれの施策も常にニーズに敏感に、引き続き、推進していく必要があります。

今後は、こども基本法及びこども大綱の制定により、施策の視点が「こどもまんなか」と標榜されたように、発達障がい等がある児童への支援の更なる充実や子どもの貧困の解消に向けた対策の必要性、ヤングケアラーなどの課題が顕在化されてきている中、学童期、青少年期における学校生活以外の家庭生活への支援の更なる充実や、子どもの居場所・抛り所の在り方などについても焦点を当て検討を進めていく必要があります。

また、これまでの「親の目線」に加え「子どもの目線」をより意識し、そしてそれらを総じてサービスに対する「利用者の目線」として捉え、子どもを真ん中に据えつつ子ども及び子育て家庭のニーズを敏感かつ多角的に捉えて施策を展開していく必要があります。

3 第2期すまいる子ども・若者プランの目標達成状況

	成果指標	平成30年度調査時	目標値	令和5年度調査時	目標達成状況
1	合計特殊出生率	1.43	1.58	1.30 ※	未達成
2	子育てに不安を感じている人の割合	64.4%	50%	63.3%	未達成 〈改善〉
3	子育てについての相談先を知っている割合	—	90%	80.0%	未達成
4	子育てを負担と感じている人の割合	21.2%	25%	24.0%	達成
5	子育てに幸せを感じている人の割合	83.8%	99%	84.5%	未達成 〈改善〉
6	父親が家事や子育てをしていると思う人の割合	64.8%	90%	66.3%	未達成 〈改善〉
7	子育てと仕事が両立できていると思う人の割合（仕事をしていない人を除く。）	74.6%	80%	74.4%	未達成
8	保育が充実していると思う人の割合	33.4%	70%	35.5%	未達成 〈改善〉
9	三条市が子育てしやすいまちになったと思う人の割合	24.7%	70%	27.2%	未達成 〈改善〉

※ 令和4年の合計特殊出生率